

巻頭言「小学校教育研究会の取組」

教育研究所連絡協議会委員長 安多 寿子

昨年度、小田原市小学校教育研究会と足柄下郡教育会が統合し、小田原・足柄下地区小学校教育研究会としてスタートして2年が経ちました。私自身は長く小教研の音楽部会に所属し、多くの部員の先生方にご指導いただいたことを覚えています。校内では、なかなか音楽科についての授業研究や実技研修、指導に関する情報交換はしづらく、音楽部会で研修してきたことは貴重な学びとなりました。学級担任が音楽の授業研究をする場は大変少なく自己研鑽に頼るところが多いと思います。音楽科は実技を伴う教科ですが、児童の発言や演奏からだけではなくワークシートから児童の思いや意図をつかむことも大切になってきます。題材のねらいを達成でき、児童が何を学び、思考・判断したかを教師が読み取ることができるワークシートを一から作成していくには多くの時間が必要になります。そこで、音楽部会では、小田原市の校務ネットワークシステムの「市内共有」に自分の指導に合わせて修正して使えるように、ワークシートデータ等を保存していく取組を始めました。

1月の小教研運営委員会の協議の中で、他の部会でも資料の収集を行っていることが話題になりました。このような取組を積み上げていくことが先生方の教材研究の一助になると考えています。各学校での優れた教育実践等を共有できるこの自主研究活動が更に充実していくことを願っています。

< 研究所便り > 「教師の学ぶ意欲を大切にする」～おだわら未来学舎～

教育指導課指導主事 柴田 典子

令和4年度も先生方のニーズに応じたテーマを設定し、「おだわら未来学舎」を実施しました。昨年度に引き続き、オンラインでの参加が可能になるよう開催し、多くの先生方に参加していただいています。日暮れが早くなり、行事が立て込む秋には参加が難しくなる傾向にあるため、次年度は開催時期を再検討し、実施する予定です。

「ICT を学びに生かす～個別最適な学びと協働的な学び～」

< 講師 高橋 純 先生 (東京学芸大学教授) >



一人ひとりが主体的で、問題解決的である授業の元で初めて「個別最適」「協働的」な学びが実現でき、端末の活用が有意義なものになります。

先進校の事例をもとに、どのような授業が活用を促すのか、具体的なお話をいただきました。

第3回

カウンセラーとしての経験をもとに、具体的なお話をたくさんいただきました。講演後、バナナとサラミを意識的に摂っている方もいるのでは？

第4回

幸せを感じると伸びるニューロンがあります。不幸で伸びるニューロンはないんです。人間は幸せになるために生まれてきたんです。



「教職員のストレスに負けない心の作り方」

< 講師 鈴木 由美 先生 (豊岡大学教授) >

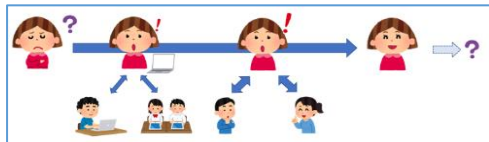
小さなころみ「共同研究」ICTを活用した『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実

教育指導課指導主事 岩立 忠

◎中野加弥子（桜井小） 志澤尚紀（新玉小） 曾我洋王（下中小） 稲葉みなみ（富士見小）
○羽入田幸恵（城北中） 幾田 遼（国府津中） 西垣 亮（白山中） 西山佳実（千代中）

児童生徒1人1台の学習用端末をどのように活用すれば児童生徒の資質・能力を確実に育むことにつながるのか、令和3年度・4年度の2年間研究を行ってきました。

学習が一人一人の児童生徒にとって「個別最適な学び」となるとともに、「協働的な学び」によって学びを深めることができるよう、具体化のポイントとICTの活用を考えました。



【一体的な充実のイメージ】

1月27日（金）には公開研究会を開き、各校から先生方に参加していただきました。授業参観、研究発表の後、早稲田大学教授の小林宏己先生に指導助言をいただきました。

【公開授業】

小6 社会科

「わたしたちの暮らしを支える政治」



参加者のアンケートから



「学習者の立場になって考える」ことは、大切だとわかっていてもなかなかできていません。その可能性を広げるのにICTの活用が有効だと、ワクワクできました！

ある教室から「子どもとともに外国語を学ぶ」

教育指導課指導主事 山田ななえ

ある日の外国語活動の授業後、たくさん英語を話して満足げな子ども達の姿がありました。授業前に担任の先生が言った「私、昔から英語が大嫌いなんです。」という言葉からは想像できない状況でした。

“Let’s start! Any volunteers? Look at me!”と積極的に英語で指示を出し、ALT 訪問日でないこの日、動画でALTが登場！単語の発音を復習。「友だちに合った文房具をプレゼントしよう！」が本時の目標。子ども達から自然と、「何あげようかな。」の声。すかさず担任の先生は、「相手ももらって嬉しい物がいいね！」と声かけ。子ども達はやり取りをしながら（Do you have a ~?）文房具絵カードを集め、担任の先生は、子ども達の良いところをほめてまわる。やり取り1回目の終了後「カードをHere you are!って渡して、もらったらThank you!って目を見て言ったらいいね！」とアドバイス。2回目はアイコンタクトと笑顔でさらに活気づき、「やったー、そろった！」と喜びの声が聞こえる。最後に友だちに「あなたのためにこれらの文房具を選んだ理由」を伝えながら、カードをプレゼント。

“Here you are! Thank you!”

この日、子ども達が話した英語は、相手を思った意味のあるやり取りでした。英語の発音は英語専科の先生やALTの得意分野です。きめ細かな子ども達への配慮、英語を積極的に話そうとする姿、子ども達が興味を持つしかけ。これらは小学校の先生が得意とする外国語活動・外国語の授業の要素だと思います。英語が楽しいという思いをふくらませて中学校に子ども達を送り出す。これが役目と違って日々試行錯誤している小学校の先生方から学ぶことが本当に多いです。